

# 三重看護学誌投稿規定

三重看護学誌委員会

## 1. 本誌の名称および目的

本誌は、三重大学大学院医学系研究科看護学専攻が発行するもので、名称を三重看護学誌 (Mie Nursing Journal: MNJ) とする。MNJ は、看護学に携わる研究者、教育者、実践家等が、日々の研究・教育・実践活動上の課題や対策等について科学的根拠をもって広く一般に周知するとともに、独自性の強い研究成果を世に問うことを目的とする。そのため、幅広い看護学分野における論文を掲載し、原則として年 1 回発行する。

## 2. 投稿資格

原則として、筆頭著者または共著者に、以下の項目に該当する者が含まれているものとする（筆頭著者が学部生の場合は受け付けない）。ただし、委員会で承認された場合には、この限りではない。

- 1) 三重大学大学院医学系研究科教職員
- 2) 三重大学医学部附属病院の職員
- 3) 三重大学大学院医学系研究科看護学専攻在籍者または修了者等

## 3. 投稿原稿の種類

原稿は 5 種類であり、それらの基準は以下のとおりとする。枚数は、図表を除くものとする。

### 1) 総説 (9 頁以内)

ある主題に関連した研究の総括であり、多面的な知見を集約した論文。原則、三重看護学誌編集委員会 (MNJ 委員会) からの依頼原稿とする。

### 2) 原著論文 (12 頁以内)

独創的な内容あるいは新しい事実に基づき得られた知見と実践への示唆について、論理的かつ学術的に述べられている研究論文。

### 3) 研究報告 (9 頁以内)

独創的な内容あるいは新しい事実を含み、得られた知見が論理的に述べられているが、原著論文ほどまとまった形でない。あるテーマについて、網羅的に文献検討を行った論文を含む。

### 4) 資料 (9 頁以内)

実践または教育の発展に向けて、論理的に科学的根拠を示した研究論文。あるテーマについて、和文を中心とした一部の文献で検討を行った論文を含む。

### 5) その他 (3 頁以内)

委員会報告、巻頭言 (MNJ 委員会からの依頼原稿)。

## 4. 倫理的配慮

研究の着手、計画、実施、成果公開のすべての過程において倫理的な配慮がなされた論文を投稿する。ヒトおよび動物が対象である研究は、研究倫理審査委員会等の承認を経て、その旨を論文中に明記する。

## 5. 利益相反

全ての著者は、発表内容に関係する企業・組織・団体との利益相反状態について、「謝辞」欄の後に記述する。利益相反に相当しない場合は、「本研究における利益相反は存在しない」と明記する。

## 6. 執筆要領

原稿の作成は、別に定める執筆要領に従うものとする。

## 7. 投稿手続き

- 1) 受付期間：受付期間は、当該年度の初めに MNJ 委員会が決定し、本学ウェブサイト (<https://www.medic.mie-u.ac.jp/nur/mnj/index.php>) に掲載する。

### 2) 投稿方法

- (1) 投稿予定者は 9 月 30 日までに MNJ 委員会アドレス (6 月頃に掲載情報更新予定) に氏名、メールアドレス、連絡先を明記し送信する。
- (2) 委員会から、投稿番号を指定し返信を行う。
- (3) MNJ 委員会宛に郵送、あるいは看護学科棟の事務局内の MNJ 委員会ポストに直接提出する。



(4) 提出する内容

「投稿原稿（紙媒体）」「投稿申込書」「投稿チェックリスト返信用包装用品（ゆうパック等）1部（審査結果などの送受方法で郵送を希望する場合）

※「投稿申込書」および「投稿チェックリスト」は、本学ウェブサイトよりダウンロードする。

※※最終提出以外の査読後の修正論文を郵送で送る場合も、返信用包装用品（ゆうパック等）を1部同封する。

(5) 投稿原稿について

i) 投稿原稿を3部（正本1部、副本2部）印刷し、これらを封筒に入れ事務局に提出にする。ただし、副本は投稿者氏名・所属・謝辞等の投稿者が特定されるような固有名詞を記載しないものとする。

ii) 封筒の表には「三重看護学誌原稿」と朱書きする。郵送時の宛先は以下の通り。

〒514-8507 三重県津市江戸橋2-174

三重大学大学院医学系研究科看護学専攻内 MNJ 委員会

8. 原稿の受付および採否

1) 上記7の手続きを経た原稿の到着日を受付日とする。

2) 原稿の採否は査読を経て、委員会が決定する。MNJ 委員会の依頼した者が査読を担う。

3) 査読により論文内容の追加・修正を求められた投稿者は、指定期間内に再提出する。期間内に再提出がない場合、投稿を取り下げたものとして扱われる。

4) 掲載論文の種類については、著者および査読者の意見を尊重し、MNJ 委員会が最終的に決定する。

9. 校正

論文受付後の著者校正は原則1回とし、校正の際の加筆を認めない。

10. 著作権

掲載論文に関する著作権は、三重大学大学院医学系研究科看護学専攻に帰属する。掲載論文は電子化され、論文は三重大学学術機関学部リポジトリ (<https://mie-u.repo.nii.ac.jp/>) に掲載される。



11. 著者が負担すべき費用

1) 掲載料原則として無料とする。

2) 別刷料10部を超えて別刷を希望する場合は、著者負担とする。

3) 投稿方法を郵送とした場合、著者からの提出用費用および査読後結果を委員会から返信する場合の郵送料は著者負担とする。

附 則

この規定の改訂は、令和2年4月1日より施行する。

この規定の改定は、令和3年9月15日より施行する。

# 三重看護学誌執筆要領

三重看護学誌編集委員会

1. 投稿する原稿は、未発表のものあるいは他の学術雑誌に投稿中でないものとし、原則として和文または英文とする。和文論文にも英文の題名をつける。

2. 原稿は、次の要領に従い、綴りの順序は以下の番号の順とする。

1) 表紙

表題（和文および英文）、著者名（和名の場合は英語併記）、所属（日本語表記）を記述する。また、本文枚数（文献を含む）、図・表および写真等の枚数をそれぞれ明記する。

2) 要旨

和文（400 字程度）および英文（250words）とする。要旨の後には、5 単語以内のキーワード（Key words）をつける。但し、「資料」および「その他」の原稿には不要とする。

3) 本文

(1) 【原稿様式】原稿は、縦置き、横組 1 段とし、片面印刷とする。用紙は、A4 判（白無地のコピー用紙）とし、余白は左右 25mm、上 30mm 下 20mm し、左辺に行番号、下辺中央にページ番号を付すこと。

(2) 【原稿書式】原稿の作成には、原則としてワードプロセッサを用い、本文には黒インクを使用して、1 ページは 40 文字 40 行程度とする。本文で用いる書体は、原則として、和文に明朝体、英文に Times 体を用いて、文字サイズを 12 ポイントにする。見出しなどは必要に応じてゴシック体に変更し文字サイズを大きくしてもよい。

(3) 【論文構成】論文の基本構成は、原則として、序論・研究方法・結果・考察・結論・謝辞・文献とする。

(4) 【図表様式】図、表、写真は適切な位置に配置する。図は、原則としてグレイ階調で作成する。図番号をアラビア数字で連番に振り、図のタイトルとキャプションを付けること。表も同様に、連番の表番号を振り、表のタイトルをつけ、必要に応じて表注を付すこと。

(5) 【略語】略語は、原則として、初出の際に正式名を記述し、括弧内に以降で使用する略語を記入し、略語の意味が理解できるようにする。

（例）日常生活動作（Activities of Daily Living、以降 ADL と記す）

(6) 【文献記載】文献の記載は、ハーバード方式（本文中に著者名と発行年次を括弧書き）とし、共著者は 3 名までを表記する。記載方法は、下記の例示による。

【雑誌掲載論文】

<和文>

著者名（年次）. 論文の表題、掲載雑誌名、号もしくは巻（号）、初頁 - 終頁.

《記載例》

畑下博世, 鈴木ひとみ, Saint Arnault Denise 他 (2015). ストレス対処に関する日本人女性の文化的特性について, 日本地域看護学会誌, 18 (2-3), 13-22.

<英文>

Author, A. A., Author, B. B., Author, C. C., et al. (year). Title of article, Journal name, volume (number), pp-pp.

《記載例》

Aiken, L.H., Sloane, D.M., Bruyneel, L. et al. (2013). Nurses' reports of working conditions and hospital quality of care in 12 countries in Europe, International Journal of Nursing Studies, 50(2), 143-153.

（出版前のオンライン公開版の場合は DOI を付ける）

Author, A. A., Author, B. B., Author C. C., et al. (year). Title of article, Journal name, Advance online publication. doi.

《記載例》

Stefana, A., Padovani, E.M., Biban, P. et al. (2018). Fathers' experiences with their preterm babies admitted to neonatal intensive care unit: A multi-method study, Journal of Advanced Nursing, Advance online publication. doi:10.1111/jan.13527.

【単行本】

<和書>

著者名（発行年次）. 書名（版数）、出版社名、発行地.

著者名（発行年次）. 論文の表題、編者名、書名（版数）、ページ数、出版社名、発行地.

《記載例》

中山和彦, 小森照久 (2000). こころの臨床 a・la・carte, 星和書店, 東京.

季節子, 澤田貴志 (2015). 在日外国人の医療, 日本国際保健医療学会編, 国際保健医療学 (第3版), pp.218-220, 杏林書院, 東京.

<洋書>

Author, A. A., Author, B. B. (year). Title of work, Location: Publisher.

Author, A. A., & Author, B. B. (year). Title of chapter or entry. In A. Editor, B. Editor, & C. Editor (Eds.), Title of Book (pp. xxx-xxx). Location: Publisher.

《記載例》

Meleis, A.I. (2017). Theoretical Nursing Development & Progress (6th ed.), China: Wolters Kluwer.

Fulton, S., Krainovich-Miller, B. (2014). Gathering and apprising the literature, In LoBiondo-Wood, G., Haber, J. (Eds.), Nursing Research: Method and Critical Appraisal for Evidence Based Practice 8th ed., (pp.49-74). China: Elsevier.

【翻訳本】

原著者名 (発行年次) / 訳者名 (翻訳書の発行年次). 翻訳書名 (版数), 出版社名, 発行地.

《記載例》

ポーリット D.F., ベック C. T. (2004) / 近藤潤子 (2010): 看護研究 原理と方法 (第2版), 医学書院, 東京.

【オンライン文献】

著者名 (発行年次). タイトル, URL, 閲覧日.

《記載例》

日本看護協会 (2015). 平成26年度 保健師の活動基盤に関する基礎調査 報告書 (平成26年度 厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業)

URL: <https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/senkuteki/2015/26-katsudokiban.pdf>

(閲覧日: 2018年2月28日).

附 則

この規定の改訂は, 令和2年4月1日より施行する.

## 編集後記

記憶を表現する言葉に「留める」「刻む」という表現があります。対象となる物事に関心を向け、また細部にまで関心を寄せ凝視したり耳を傾けたりすることで記憶することを、自らの意思で自らに課す強い姿勢が示された表現です。それぞれの動詞は、対象を施す所在と結びつきます。心に焦点を当ててみると「心に留める」「心に刻む」という言葉があることに気づきました。

私的な選択であることをご容赦いただきつつ、2021年度の記憶しておきたい出来事を3つ挙げてみます。

- ①東京・北京五輪のアスリートの活躍は、相変わらず先行きの見えないコロナ禍のさなかでありながらから多くの感動を与えてくれました。特に東京五輪に関しては今年を象徴する文字として「金」が示されるほど強い印象を残してくれました。アスリートの芸術級の動きやアスリートがたどってきたストーリーの記事を「心に刻み」、自身の可能性を探究する思いを抱いたことを「心に留めておきたい」出来事でした。
- ②2022年3月、ロシアによるウクライナ攻撃が始まり、脅威を感じるとともにあらゆる国が戦争を食い止めるべく主張と交渉の攻防が続いています。日々メディアから流れる戦火の映像や市民の嘆きの様子を目に焼き付けながら、この壮大で難しい問題に何ができるかと腐心し、戦いを鎮める言葉を探そうとする衝動にかられたことを「心に留める」出来事となっています。
- ③当看護学専攻において11月から3月にかけて7名の先生方の異動がありました。先生方の人柄はもとより教育や研究へ示してこられた姿勢を改めて「心に刻み」、わが身の有り様を整え向上させる思いを「心に留める」出来事となりました。

いずれの出来事においても、そこに、詳細な映像や文脈をもったストーリーがあるから「心に刻まれ」、そこから生じた自身のなかの衝動を言葉にしたから「心に留まる」ことになります。事実を記し、自身のなかで衝撃を受けたり咀嚼したりしたことを表現することが、出来事を結果に終わらせることなく、次の出来事のきっかけとして発展させていく源になると思います。

三重看護学誌（Mie Nursing Journal: MNJ）は第24巻から冊子体を廃止しオンラインでの閲覧のみになりました。折しもコロナ禍の下で、オンラインでの通信がさらに加速化されている現状において、情報発信源としての役割をさらに充実させていきたいと考えています。MNJは、発信した情報が誰かの「心に刻まれ」そこから「心に留まる」新たな動機が芽生え、教育や研究の発展につながるスパイラルに寄与していきたいと考えています。今後とも宜しくお願い致します。

三重大学学術機関リポジトリのURL：<https://mie-u.repo.nii.ac.jp>

2022年3月

三重看護学誌編集委員長

竹内 佐智恵

令和 3 (2021) 年度  
三重看護学誌編集委員会

委員長：竹 内 佐智恵

副委員長：井 村 香 積

委 員：平 松 万由子

近 藤 桃 子

高 橋 恭 子

---

---

三 重 看 護 学 誌

第 24 卷

印 刷 2022 年 3 月 31 日

発 行 2022 年 3 月 31 日

発 行 者 三重大学大学院医学系研究科看護学専攻

〒 514-8507 津市江戸橋 2 丁目 174 番地

TEL (059) 232-1111 (代)

FAX (059) 232-8065

印 刷 所 伊 藤 印 刷 株 式 会 社

〒 514-0027 津市大門 32 - 13

TEL (059) 226-2545 (代)

FAX (059) 223-2862

---

---